

温泉地紹介

フランス, プロヴァンス地方の温泉 Hot Springs in Provence, France

伊達潤子¹⁾

Junko DATE¹⁾

(平成 21 年 8 月 3 日受付, 平成 21 年 8 月 25 日受理)

1. はじめに

フランス共和国は, 北西が太平洋, 南が地中海に面しており, ベルギー, ドイツ, スイス, イタリア, スペインの 5 カ国と国境を接する, 54 万 4 千 km² の面積を持つ国である. フランス共和国の 2008 年統計人口は約 6,400 万人, また宗教は, 主にカトリック, プロテスタント, イスラム教, ユダヤ教である (外務省, 2009). フランスの温泉については, 矢野 (1957), Burnet (1989), 大塚 (2006) らによって, 本学会誌において紹介されている. ヴィヤール (2006) によると, フランスの温泉は紀元前からの歴史があり, ガリア時代には, 源泉は神秘的なものとして信仰の対象であった. また, ローマ時代には温泉が組織化され, 兵士や裕福な市民, 病人が利用していた様子が伺われる. しかし中世になると, 教会が温泉を管理して, 古代の神々を排除することになったという. そして 1950 年から始まった政府の社会保障適用により, フランスの温泉施設は医療化されていくことになる. フランス語で「バン (bain)」は入浴, 浴槽を意味しており (長島, 2005), 例えばフランスで古くから知られた温泉保養地のエクス・レ・バンなど, 温泉保養地にはバンという名前が付加されていることが多い.

プロヴァンス地方は, ローマ時代にローマ属領 (プロヴァンキア・ロマーナ) であったことから, プロヴァンスと名づけられた. 古代ギリシャ人によって建設されたマッサリア (現在のマルセイユ) を含む (ノウ, 2005), 独自の方言であるプロヴァンス語を持っている (工藤, 1995). また, この地域はフランス南東部の地中海に面しており, 現在の行政地域としてのプロヴァンス・アルプ・コートダジュール (PACA : Provence-Alpes-Côte d'Azur) 地域圏とほぼ重なる (フランス政府観光局, 2009). 本稿では, 2009 年 4 月から 6 月にかけての計 7 週間の調査から, 主に筆者による温泉地での聞き取り調査をもとに, PACA 地域圏にある 3 ヶ所の温泉 (Fig. 1) について紹介する.

2. グレウー・レ・バン (Gréoux-les-Bains) の温泉

グレウー・レ・バンは, アルプ・ド・オート・プロヴァンス県 (Alpes-de-Haute-Provence) に属し, ヴェルドン地方自然公園や, ラベンダーで有名なヴァランソル高原に隣接する標高 367 m の町 (Photo 1) である. この町と温泉の歴史は, ローマ時代に始まった. 1788 年には温泉公園や温泉ホテルが建設され, その後カジノや遊技場も開設された (Chaumont-Gorius, 2004). 現在では, 温泉に隣接する公園¹⁾と縮小したカジノが残されており, 温泉施設は 1963 年から, 民間組織であるソ

¹⁾ 〒299-4314 千葉県長生郡一宮町新地 2434-1-803.

¹⁾ Arachi 2434-1-803, Ichinomiya, Chosei-gun, Chiba Prefecture 299-4314, Japan.

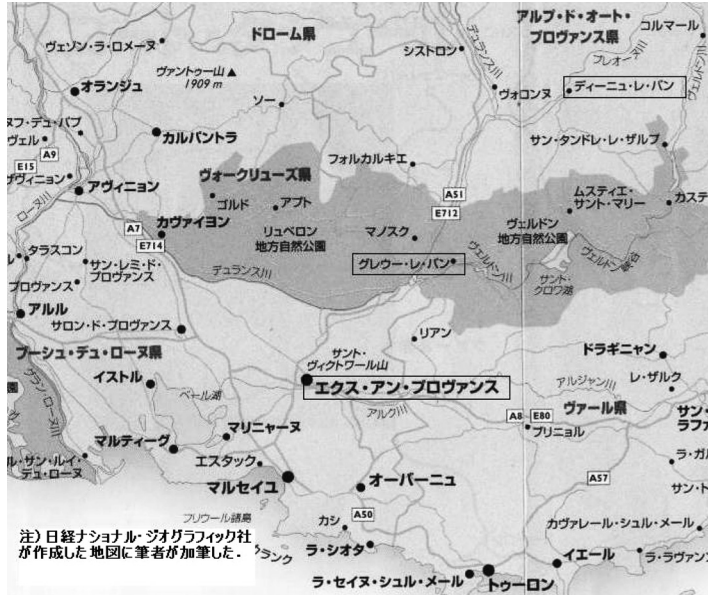


Fig. 1 Map of Provence, France. (フランス国プロヴァンス地域の地図)



Photo 1 Overview of Gréoux-les-Bains.
(グレウー・レ・バン全景)

レイユ温泉チェーン (Chaîne Thermale du Soleil) が所有している。また、以前より使用していた源泉の湧出量が減少したため、1997年にグレウー・レ・バンの南西約2 km のピジエット村において掘削した結果、現在はピジエット村の地下1,730 m からの温泉 (公称42℃, pH 7.1) を、グレウー・レ・バンまでパイプを用いて引湯したうえで利用している。改修工事後の温泉施設は、豪華な装飾が施された最新の設備 (Photo 2) で、さらに施設の増設工事も行われていた。

グレウー・レ・バンで筆者が宿泊したホテルの所有者は、祖父の時代からこの町に住んでいるとのことであったが、彼ら自身はソレ

レイユの温泉施設に行くことはないと言っていた。「リウマチや気管支の患者のための施設だから、私たちは対象外」であり、「ツーリストのために1日コースもあるらしいが、高価である」という理由からである。

ソレイユ温泉チェーンの担当者によると、入館者は通常1日当たり約400人だが、保養に適した気候となる9月から10月にかけては、1日約3,800人に増えるという²⁾。また7月から8月にかけて学校の夏休みの時期には、気管支炎の治療のため年少者が多く訪れるそうである。温泉の適応症は呼吸器系疾患とリウマチ系疾患であり、飲用はしないが、呼吸器系疾患のための温泉吸入設備がある。開館時期は3月から12月までで、冬季は閉館する。患者の65%は、国の健康保険制度を利用している。ちなみに、この保険が適用されるのは3週間以上の治療だけである。42℃の源泉水は、



Photo 2 Entrance of Thermes, Gréoux-les-Bains.
(グレウー・レ・バンの温泉施設)



Photo 3 Entrance of Thermes, Digne les Bains.
(ディーニュ・レ・バンの温泉施設)

治療に適切な 39-40℃ に下げて使用しているという。また、午前は医師の処方を受けた患者に限定されるが、午後は一般にも開放している。一般客は、各種療法による 1 日コース・3 日コース・6 日コースを選択できる³⁾。

3. ディーニュ・レ・バン (Digne-les-Bains) の温泉

ディーニュ・レ・バンは、標高 650m のアルプ・ド・オート・プロヴァンス県 (Alpes-de-Haute-Provence) の町である。公式観光パンフレットによると、年間日照日数が 300 日以上、「青空と太陽と清浄な空気が、健康のために最適」であるという。温泉施設は現在、民間組織であるユーロテルム (Eurothermes) が所有している。担当者によると、源泉は温泉施設の隣で、地下 840 m まで掘削したもので、公称 70℃、pH 7 である。源泉水は、治療に適切な 35℃ に下げて使用している。入館者は通常 1 日当たり約 500 人で、温泉の適応症は呼吸器系疾患とリウマチ系疾患である。飲用はしない。開館時期は 3 月から 12 月までで、冬季は閉館する。また、時間を限定して一般にも開放している。一般客は、入館料 4 ユーロ (温泉プールのみ使用可) の他、各種療法による 1 日コース・2 日コース・3 日コース・5 日コースを受けることもできる⁴⁾。温泉施設は町からバスで 10 分ほどの郊外にあり (Photo 3)、この場所は近くの山へのハ

イクキングの入口にもなっている。

また町の中心部には、温水という意の「ル・オ・ショ (Les Eaux Chaudes)」と名付けられている公営温水プールがある。通年開館で、入館料 4.4 ユーロ (大人) である。サウナやハンマーム (トルコ式風呂) の他、マッサージもあり、ユーロテルムに比べると割安な価格設定になっている。プールは温泉水なのかとの筆者の質問に対し、担当者は「温泉ではなく、一般水道水を 29℃ に加温している。」と回答した。また、「家族で 1 年を通して利用されることが多いので、家族特別料金 (大人 2.2 ユーロ、子供 1.6 ユーロ) を設定している。」とのことであった。

4. エクス・アン・プロヴァンス (Aix en Provence) の温泉

エクス・アン・プロヴァンスは、ブッシュ・ド・ローヌ県 (Bouches-du-Rhône) に属し、セザンヌの絵で有名なサン・ヴィクトワール山を後背に控えた標高 175 m の町である。公式観光パンフレットによると、エクスという町の名は、発見された温泉に由来してローマ時代に付けられた「アクア・セクティア」から来ており、水という意味がある。ここは、現在でも「水の町」として有名

であり、町のいたるところに噴水がある⁵⁾。セクスティウス温泉 (Thermes Sextius) は、ローマ時代の温泉遺構に隣接して 10 年前に建設された (Photo 4)。その名前は、ローマの執政官セクスティウスが此処の温泉を発見したことに因んでいる。温泉施設は、現在ユーロテルムが所有しており、源泉は施設内にある自噴泉 (公称 33°C, pH 7.4) である。担当者によると、通年営業しており、入館者は通常 1 日当たり約 170 人である。温泉施設が建設される以前、温泉およびその周辺は一般に開放された場所で、湧出する温泉は関節痛に良いと言われ使用されていたが、現在の施設は医療目的ではなく、保養、健康増進、瘦身等の目的で利用されている。そのため、医師や医療従事者は勤務していない。温泉水はジャグジーのみに使用され、運動用プール (Photo 5) や屋外プールは、一般水道水である。温泉湧出口のわきに、温泉飲用口を設けている。施設では各種コースを取り揃えているが、美容瘦身が目的の女性客の利用が多いとのことであった⁶⁾。

エクス町の語学学校教師たちに聞いたところ、彼ら自身はユーロテルム温泉施設に行くことはないと言っていた。「民間施設なので、高価である」ことや「プールに行けば、3 ユーロで 1 日遊べる」という理由からであった。

5. プロヴァンスの温泉と利用法

以上に紹介したプロヴァンス地域の温泉のうち、グレウー・レ・バンとディーニュ・レ・バンの 2 ヶ所は、主に医療目的で使用されている。両温泉とも、利用者は呼吸器系やリュウマチの慢性疾患を持った人々が大部分である。温泉を経営するどちらの民間組織も、「医師が処方する近代医学の療法」であり、「自然に基づく医療 (Medicine Naturelle)」でもあるとの付加価値を、温泉治療に持たせている。また、どちらの施設でも一般客に開放している温泉利用法があるが、観光客や地元民を惹きつけているとはいえないようである。外国や北仏からの観光客の多いエクス・アン・プロヴァンスにおいて、施設規模の割に入館客が少ないのは、治療目的の来訪者がいないことにも起因しているようである。プロヴァンスのフランス人にとっては、病気治療のためであればともかく、余暇や娯楽のために温泉に行くのは、価格的にもレジャーとしての楽しみにも欠けるようである。筆者も各施設の温泉プールもしくは温泉ジャグジーを使用してみたが、ただ漫然と浸かって楽しむには温度が低いため、日本の温泉のように楽しむことが出来ず、また運動や水泳をするのであれば、各種マシンを取り揃えたジムの方が楽しい、といった娯楽としての中途半端さを感じた。



Photo 4 Overview of Thermes Sextius, Aix en Provence. (エクス・アン・プロヴァンスのセクスティウス温泉全景)



Photo 5 Aqua-gymnastics in Thermes Sextius, Aix en Provence. (セクスティウス温泉内の運動用プール)

Table 1 Major components of each hot-spring. (各温泉の主な温泉成分)

成分 (mg/l)	温泉地域名		
	グレウー・レ・バン	ディーニュ・レ・バン	エクス・アン・プロヴァンス (セクスティウス温泉)
ナトリウムイオン (Na ⁺)	234.00	2116.00	13.80
カリウムイオン (K ⁺)	35.00	60.50	10.80
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	90.00	121.60	22.80
カルシウムイオン (Ca ⁺)	252.00	604.00	69.20
鉄イオン (Fe ²⁺)	5.05	0.32	0.01
フッ素イオン (F ⁻)	1.70	4.17	記載なし
塩素イオン (Cl ⁻)	285.00	2782.00	22.70
硫化水素イオン (HS ⁻)	0.10	記載なし	記載なし
硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	970.00	2579.90	47.00

注) 表は各温泉から入手した成分表を元に伊達が作成。

各成分は小数点以下2桁まで表示。

また、どの温泉でも、源泉の位置と深度、泉温については問い合わせが必要であったのに比べ、温泉の成分表は受付に掲示しており、温泉療法のうえで成分 (Table 1) を重視しているようであった。これらの温泉を利用する人々にとっては、温泉成分が明確であることが温泉療法の必須条件であると考えられる。いわば、効果のあるミネラル等の成分が含有された治療薬である「温泉」を使用して、特定疾患を治療することが、プロヴァンス地域の人々の、温泉に対するイメージなのだろう。



Photo 6 People relaxing on the beach, Provence.
(プロヴァンス地域の海岸で寛ぐ人々)

6. プロヴァンスの余暇と温泉

ヨーロッパの温泉は、ローマ時代では「健康と快樂のための湯浴み」であり、17世紀には「上層階級のための快樂と気晴らし」になり、18世紀には「療養と病人の介護」に変化していった (コルバン, 2000) という。また温泉湯治と競合して18世紀に流行した海水浴では、一般の保養客と違って、療養客には治療の手順や期間等が指定されていた (コルバン, 2003)。現在のタラソセラピー⁷⁾においても、「運動なしに『ただ単に浸水』するだけでなく、キネジセラピー⁸⁾をあわせて行うことで (中略) 代謝効果をあげることができる」といわれている。また、温泉治療では温湯に含まれるミネラルを薬効とするのに対し、海水治療では海水・海泥・海藻などに含まれるミネラル塩とビタミンを薬効としている (ルノーディ, 1997)。温泉浴にしても海水浴にしても、病人にとっては治療の一環として考えられているといえる。

それでは現在の、健康な人々にとっての「快樂や気晴らし」は、温泉浴や海水浴にはみられないのであろうか。まず余暇としての海水浴は、夏のプロヴァンスで欠かせないものである。初夏が来ると、老人も子供も、厳しい陽射しや冷たい海水にかかわらず、海岸に集まってくる (Photo 6)。フランス語には、海水浴に関連した「ベーニュ (Baigner)」という動詞がある。「浸す」「水浴する」

の意で、泳ぐというより、海岸での水遊びといった余暇活動のひとつとして認識されている。また上記で紹介した温泉がある町には、海岸から遠いところもある。その場合にはプールでの日光浴と水浴が、海水浴の代替として余暇を代表しているようである。それに比べて温泉浴は、現在では、フランス人の余暇活動として確立されていないように感じる。温泉チェーンによる温泉リゾートは高価であるのに比べ、海岸は一般客に無料で開かれていることも原因かもしれない。

7. おわりに

プロヴァンスの温泉における聞き取り調査において興味深かったのは、フランス人の「温泉」の捉え方である。プロヴァンスの温泉は、特定の人々を対象とした疾患治療のための施設として、一般に認知されているようだ。また、温泉の温度にはそれほど執着せず、温泉成分が重要だと考えている。温泉浴と海水浴を、成分の見地から水浴治療として比較対照することが出来るのもそのためであろう。どちらも、効能のある水に体を浸すことが出来る点では似ているからだ。

また「療養客は温泉で治療、一般客は海岸で余暇」といったイメージは、日本の温泉事情とは異なっていると感じた。ただし、これがプロヴァンス以外の地方で同様かどうかは定かでない。プロヴァンスは「海と太陽がたっぷりの地中海」として有名で、夏の休暇やレジャーと、海水浴は切り離せないからだ。また他の地方でみられる飲泉も、プロヴァンスでは盛んではない。プロヴァンス以外のフランスの温泉、例えば大西洋側やアルプス山脈近くの温泉では、「温泉」はどう捉えられているだろうか。紀元前からの歴史があるフランスの温泉については、興味が尽きない。

注

- 1) 公園のなかには、廃墟となった教会が残されていた。グレウー・レ・バンでは、ベネディクト会修道士が小修道院を建て、温泉の使用を管理していたらしい(ヴィヤール, 2006)が、それを示す碑や紹介文は、公園内には見当たらなかった。
- 2) 「1日3,800人」は担当者から聞き取った情報であり、年間来館者数の推移に関する公式資料は入手できなかった。
- 3) 例えば最低価格のコースは、ハイドロマッサージ・プールでの体操・泥浴・温泉シャワーの4種療法を受ける1日コースで49ユーロである。
- 4) 例えば最低価格のコースは、エッセンシャルオイル入り泡浴2回・20分のエッセンシャルオイルマッサージ2回・アルゲーパック1回・プールでの体操1回・サウナ・温泉プール使用の2日コースで139ユーロである。男性限定の1日コース(59.50ユーロ)もある。
- 5) 町の日抜き通りには、1734年に温泉から引いてきた、温水の泉(La Fontaine d'Eau Chaude)と呼ばれる噴水もある。
- 6) 例えば最低価格のコースは、サウナ・ジャグジー・屋外プールが利用できる1日コースで42ユーロである。
- 7) タラソセラピーは、「海水及び海水の大気・気候がもっているさまざまな特性を利用して行なう療法(ルノーディ, 1997)」である。
- 8) キネジセラピーは、運動学(Kinesiology)に基づく運動療法である。

引用文献

- Burnet, J-P. (1989) : エクス・レ・バン温泉施設の紹介, 温泉科学, **39**, 121-125.
 Chaumont-Gorius, S. (2004) : Petit album découverte Gréoux-les-Bains, pp. 7-31, L'Imprimerie la hulotte, Marseille, France.

- コルバン, アラン (2000): レジャーの誕生, pp. 41-43, 藤原書店, 東京.
- コルバン, アラン (2003): 浜辺の誕生—海と人間の系譜学, pp. 164-165, 藤原書店, 東京.
- フランス政府観光局 (2009): フランス政府観光局オフィシャルサイト—フランス—地方—プロヴァンス, <http://jp.franceguide.com/home.html?nodeID=168>.
- 外務省 (2009): 外務省—各国・地域情勢—フランス共和国, <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/france/data.html>.
- 工藤 進 (1995): 南仏と南仏語の話, pp. 44-62, 大学書林, 東京.
- 長島秀行 (2005): フランスの温泉を訪ねて (その1), 温泉, 73-2, 4-7.
- ノウ, バーバラ・A (2005): ナショナルジオグラフィック海外旅行ガイド—プロヴァンスとコートダジュール編, pp. 25-26, 日経ナショナルジオグラフィック社, 東京.
- 大塚吉則 (2006): フランス, AIX-LES-BAINS (エクス・レ・バン) の温泉治療, 温泉科学, 56-1, 16-17.
- ルノーディ, ジャック・B (1997): タラソセラピー—海から生まれた自然療法, pp. 7, 32, 76, 白水社, 東京.
- ヴィヤール, フィリップ・ランジュニユー (2006): フランスの温泉リゾート, pp. 15-20, 50-53, 白水社, 東京.
- 矢野良一 (1957): 欧米の温泉について, 温泉科学, 8-1, 29-30.